

伊予農高 同窓会報



御挨拶
同窓会長 甘井 清久

令和5年度卒業生の皆様に心よりお喜びを申し上げますとともに、同窓会入会を心より歓迎申し上げます。

皆様が入学された時期は新型コロナウイルス感染症が拡大の真只中であり、行動制限を余儀なく

された時期でもありません。ようやくここへきて、コロナ禍の出口が見え始め、ウィズコロナからアフターコロナへ動き始めているようにも思われます。

皆さんの日頃の部活動の成果を競う高校総体を

はじめ、各種大会が今年も行われました。サッカー部、野球部、バレーボール部の健闘をはじめ、卓球部男女の中予地区総体ベスト8、陸上部県総体上位入賞、ライフル射撃団体優勝など多くの活躍がみられました。

また、県国際教育研究生徒発表会最優秀賞、農業クラブ四国大会最優秀賞、「えひめ地域づくりアワード・ユース」最優秀賞、石積み甲子園優勝、税に関する五七五優秀賞

はんぎり競漕3位入賞もありました。さらに、保育所、幼稚園、小学校、中学校との交流学習、市、大学、および企業との連携、市役所、役場、公共施設および警察署への花の定植、伊予彩まつりへに参加、秋の交通安全運動、地域神社への絵馬奉納など地域交流や校外実習でも今年も成果を挙げられたと思います。



御挨拶
校長 福岡恵里子

伊予農業高校同窓会の皆様におかれましては、益々御健勝にて各界において御活躍されていくことに、心からお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は今年度から本校の校長を勤めさせていた大変恐縮ですが、私事で大目、以前平成二十年から八年間家庭科教員として勤務させていただきま

した。当時は主に生活科、理科学科長として、家庭科科目はもちろん、農業科目の課題研究を担当し、生徒と一緒に楽しい日々を過ごさせていただきました。八年ぶりに戻ってまいりましたが、当時と比べると生徒はだいぶ落ち着いており、ただ、楽しみにしている元氣に行事を行う様子は以前のままで、安心いたしました。

伊予市民でもある自分校としては、伊予農は勤務地としての学校、第二の母校としてとても大切な学校だと感じております。

今年度本校は創立百五周年を迎えます。地域の方々から愛され続け、本当に活気のある素晴らしい学校として発展し続けています。昨年五月に新型コロナウイルスの扱いが五類に引き下げられ、コロナ禍でストップしていた行事も今度以上にパワーアップして再開されています。運動会も農業祭も多くの観客の方に見守られながら大いに盛り上がりました。また、修学旅行では三年ぶりに台湾班が現地へ赴き、姉妹校提携をしている台中市新社高級中学との交流を果たすことができました。同じ農業高校生として

授業体験や交流会を通して絆を深めることができました。山岡栄先生の記念碑に赴き直接拝礼することも叶い、今後とも結ばれた御縁を大切にしていきたいと思っております。

さらに生徒たちは今年度も多くの活躍をしてくれました。まず、日本農業クラブ全国大会農業鑑定競技優秀、プロジェクト発表会出場、地理空間情報活用全国コンテスト最優秀、第一回石積み甲子園初代チャンピオン、**王**全国ホームプロジェクトコンクール最優秀、また県内でもえひめ地域づくりアワードユース2023最優秀と日頃の学習の成果がいろいろな場面で認められました。さらに部活動ではライフル射撃部が鹿児島で開催された特別国体ビームピストル少年女子の部で優勝し、併せて笑顔のえひめ知事表彰と愛媛新聞スポーツ賞も受賞しました。沢山の「日本一」また「県下一」を獲得し、本当に生徒の伸び代は計り知れません。

今後とも生徒一人一人が輝ける学校、これまで以上に地域の方々に必要とされる学校を目指して日々努力し、素敵な話題を数多くお届けしたいと考えております。同窓会の皆様にも引き続き御指導・御支援を賜り、温かく見守っていただければこんなにうれしいことはありません。今後ともよろしくお願いたします。

〈発行者〉
伊予農業高等学校
同窓会事務局
〒799-3111
伊予市下吾川1433
TEL 089-982-1225
FAX 089-983-4177

んの貴重な財産となつて、皆様が希望を胸に抱き、社会に第一歩を踏み出させる力となることを確信しております。

もちろん、各分野で活躍されている同窓生の先輩の方も皆様がサポートしてくださるはずで

同窓会もコロナ禍を乗り越えて、学校、同窓会の役割、思いを会員の皆様と共有してまいりたいと思います。同窓生の皆様方には、尚一層のご協力をお願い申し上げます。

最後にになりましたが、本校と同窓会の益々のご発展と、同窓会の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



同窓会総会の様子



甘井同窓会長挨拶

令和五年度農業祭

○開催概要
令和五年十一月十二日(日)に「伝統受け継ぎ 未来につなぐ 農業祭2023」のテーマのもと、入場制限を設けない久しぶりの農業祭が開催されました。

○校史展
校史展では、同窓会の教員を中心に過去の同窓会報や卒業アルバム、写真等を展示。在学当時を懐かしむ同窓生の姿がみられました。

○学農連盟
農業を営む同窓生等が、生産した農産物を販売しました。



学農連の農産物販売



校史展での展示風景

在校生の活躍

石積み甲子園優勝

環境開発科3年 池内 悠



石積み班に入ったのには大きな理由はなく、ただ石を積むのが楽しそう、面白そうと感じたからです。実際に石を積み始めると積む石が思ったより大きく重かったり、私が大嫌いな虫が出てきたり、しんどい事ばかりでした。しかし、一つ一つ石積み現場を完成させる毎に、達成感や自分の役割をしっかりと果たせた時の嬉しさなど、やっていて良かったなと感じるようになりました。

らに石積みの良さや交流する楽しさなどを経験できてとてもいい機会になりました。虫は相変わらず嫌いのままですが、今後も石積みの楽しさに触れていきたいと感じました。

環境開発科3年 久保田 徠夢

初めは石を積むことぐらい簡単だろうと思っていたけれど、実際に石積みをしてみると想像以上に難しく、とても大変な作業に感じました。解体と床掘りで担当を決め、徐々に作業をスムーズに終わらせることができるようになりました。

甲子園当日、チームの仲間や隣の愛大附属高校と連携をとりながら、積んでいくことができた。床掘の最後のほうで、大きな石が出てきたけど、周りの大人の方たちの協力により、上手く下の石として使うことができた。そこからは、普段通り積んでいくことができました。

曾祖母の家は石積みがいっぱいある所なので、壊れていくところがあったら、この石積み甲子園で習得した技術や知識などを使って直せたらいいなと思います。後輩にも石積み班に所属し、石積み甲子園に出場をする人が出てくると思います。頑張ってください。



石積み甲子園の当日は第一回ということもあり、参加校が4校という少ない規模ではあったものの緊張感がありました。実習の時よりも大きな石が出てきて難航したものの最終的に初代チャンピオンを獲得することができ驚きと嬉しさがありました。

ライフフルが私を変えた

ライフフル射撃部 浦部穂乃加



私は、国内の最も大きな大会である国体で優勝することができた。1年4か月前の自信がなく内気な性格の私から想像できただろうか。

高校に入学して、最初は違う部活動に所属していましたが、ライフフル射撃部の友達から話を聞いて、「楽しそうだな。やってみよう」と思いました。体験させてもらった。撃つとみる楽しさの中に奥深さがあり、やってみようと思いが、入部することを決意した。これが、ライフフル射撃との出会いです。

入部してからは、一生懸命に練習に取り組みました。そして、高知県で行われた国体四国ブロック予選にオーブン参加で初めて大会に出場した。今そこそあまり緊張を表面に出すことはありませんが、初めての試合で緊張して腕が震えたことを覚えています。その後の県新人大会では2位と悔しい思いをしました。その悔しさを力に変え、毎日練習をしました。多くの大会に出場するようになり、だんだんと自分に自信が付いてきました。そのなかで、迎えた2年生の夏の全国大会。優勝を狙っていましたが、11位という不甲斐ない結果に終わりました。とても悔しく落ち込みました。そのような中でも、部員の仲間の

頑張り姿を見て、私も負けてられないと練習に励み、8月に行われた国体四国ブロック予選。絶対に国体に出場するという強い気持ちで打ちこみました。結果は1位で国体出場が確定しました。それからかごしま国体までの1か月、猛練習に励みました。迎えた試合当日。私のチームピストル種目は大会初日でした。愛媛チームを勢いつけるためにも勝たなくてはならない。射座に入り、深呼吸をして、会場に鳴り響くBGMの音楽とピストルの音。周りを意識せず、いつもの練習のように撃ち続けた。予選を1位で通過しました。嬉しさとプレッシャーからすくく気持ちが高まりました。そして、ファイナルは10発撃つ後は1人ずつ脱落していく方式で、最後の2人まで残りました。最後の2発で10点台を出し、優勝することができました。緊張からの解放と嬉しさと涙が溢りました。

この優勝は、私だけのものではなく、顧問の先生や部活のメンバー、私を支えてくれた家族のおかげです。とても感謝しています。ライフフル競技は高校までと思っていました。最後まで楽しんでいきたいと思っています。

次の1年後はどんな私になっっているだろうか。



全国高校生ホームプロジェクトコンクール 最優秀

生物工学科3年 宮崎 れもん



私は高校2年の夏から「死蔵衣服」と向き合ってきました。私の家の押し入れには着なくなった死蔵衣服がたくさんあります。思い入れがあり、手放すことが出来ていなかった衣服を、「使い続けられるもの」にリメイクしたいと考えました。

2年生の時は家族の希望を聞き、フォトフレーム、エコバッグ、ぬいぐるみの衣装、クッション、ペットボトルホルダー、ネコの服を製作しました。また、伊予農生(2年生七七名)に「FOLIES」を使って死蔵衣服に関するアンケートを実施しました。私と同じように多くの人がタンスの中に死蔵衣服を持っていることが分かりました。そしてこの作品は、愛媛県高等学校家庭科ホームプロジェクトに応募しました。結果は佳作でした。

私は昨年より、より良いものを製作するために同じく「死蔵衣服」をテーマにホームプロジェクトを行いました。何に作り変えるか悩んでいた時、隣の家に住む祖母に悩みがあることを聞きました。祖母は、二人のひ孫がいます。ひ孫が祖母の家に遊びに来た際、長時間遊べるおもちゃがなく、すぐに飽きて泣いてしまうとある死蔵衣服を活用し、小さな



な子供が遊べるおもちゃづくりを行うことにしました。私が今回製作したのは、指人形、くつきスティック、ベビーボール、知育絵本の4つです。知育絵本では、ストーリー性のあるものにしたく、「おはよう」から「おやすみ」までのストーリーを作りました。また異なる年齢の子供が楽しめるよう、ページごとの難易度を調整し、複数人で遊ぶことを想定して気に入ったページは、リングから外して遊べるようにしました。また、地域で古着回収を行っているお店に行き、古着回収の現状のインタビュー調査を行いました。毎月集まる古着の量はとても多いことが分かりました。今年度は、全国高校生ホームプロジェクトコンクールに応募し、最優秀賞を受賞しました。

